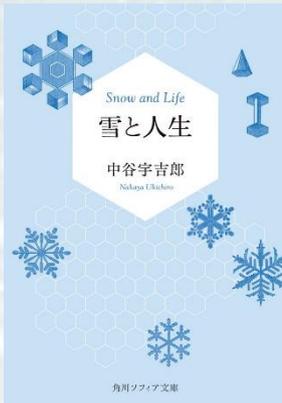


今回のテーマは「空を見上げて」

寒い日が続くと、外に出るのも億劫ですが、思わず空を見上げたくなるような本を紹介します。

## 雪と人生

なかや うきちろう  
中谷 宇吉郎／著 KADOKAWA



中谷宇吉郎は、世界で初めて人工的に雪の結晶を作り出した物理学者です。また随筆家としても知られています。「物理学者」というと、なんだか難しくて堅苦しい文章なのでは、と思われるかもしれませんが、読んでみるとユーモアにあふれています。人工的に雪を作り出すというのは簡単なことではなく、何度も実験を繰り返しデータ

を取り、また実験を繰り返すと、年月を費やして行われていました。ですが実際には、とても楽しんでいたように感じられます。人に実験の目的を尋ねられると、「冬期の上層の気象状況が分かるようになって、航空気象上重要なことになる」などと答えるものの、実は色々な種類の雪の結晶を作ることが一番の楽しみだとか、寒い中さんざん苦勞して研究しても、何かの役に立つのかも確信はないが、「面白いことは随分面白いと自分では思っている。世の中には面白さえないものもたくさんあるのだから、こんな研究が一つくらいはあってもよいだろう」などと書いています。柔軟な発想と行動力。好奇心を持って楽しむことを忘れない。「科学者」のイメージが変わるかもしれません。

## すごすぎる天気の本 空のふしぎがすべてわかる!

荒木 健太郎／著 KADOKAWA



かわいらしい表紙の児童書ですが、大人でも充分楽しむことができます。天気に関することが、写真や図でわかりやすく説明されており、「雲にあく大きな穴のヒミツ」とか「積乱雲が空を割る瞬間」とか、見出しにもとても興味を惹かれます。雪の結晶の種類や名前の載っているページには中谷宇吉郎の言葉も紹介されています。

普段何気なく見ている雲も種類や名前がわかれば、興味を持って見てみたくなります。スマホで雪の結晶をきれいに撮る方法や宇宙から地球を眺める方法など実際に試してみたいものや、虹色の彩雲や雲や霧に妖怪のような影の映るブロッケン現象など、少し変わった自然現象の観察のコツも載っていて、久しぶりにじっくりと空を眺めてみたい気分させてくれる1冊です。